※益田氏の祖父の兄である益田鈍翁の伝記．益田氏が三井財閥を作り上げた益田鈍翁（本名は孝）の末裔であったことは最近の魚類研究者にはあまり知られていない．

田代紀子・宇都宮　浩編．2006．水中写真のパイオニア・益田一氏追悼特別企画—ありがとう益田一先生．月刊ダイビングワールド，32(3): 138–143.

※一番弟子の中村宏治氏を筆頭に，写真家，インストラクター，編集者，元社員など，益田氏ゆかりの人たちがそれぞれの立場で思いを寄せている．

富永義昭．1976．Coastal fishes of southern Japan. Hajime Masuda, Chuichi Araga, and Tetsuo Yoshino. 1975. Tokai Univ. Press, Tokyo, 379 pp., 143 pls., 11 figs. ¥15,000. 21×30.5 cm.（魚類図鑑—南日本の沿岸魚．益田　一，荒賀忠一，吉野哲夫．東海大学出版会，東京）．魚類学雑誌，22: 246–250.

※益田氏の代表的出版物「南日本の沿岸魚」の書評．写真に簡単な解説を付けてインスタントラーメンのように図鑑（的写真集）が乱造される昨今，学会のご意見番だった故　富永義昭博士による徹底した書評は戒めとして胸に刻んでおきたい．

鷲尾紘一郎．1987．評伝 フィッシュウォッチングのドン 益田一．スキンダイバー・ジャパン，Vol. 1（創5月号増刊），142–149.

※益田氏のルーツと生い立ちを知るには最適の資料．氏の経営哲学や人生訓にまで言及している好著だが，掲載誌は廃刊となっており，国会図書館にも収蔵されておらず，入手が困難（必要な方は電子メールにて筆者までご連絡ください）．

（瀬能　宏　Hiroshi Senou：〒250–0031　神奈川県小田原市入生田499 神奈川県立生命の星・地球博物館　e-mail: senou@nh.kanagawa-museum.jp）

会記・Proceedings

魚類学雑誌
53(1): 113

2005年度第5回幹事会

日　時：2005年12月1日　13:30–17:30
場　所：北海道大学大学院水産科学研究院
出席者：西田，松浦，宗原，今村，矢部，甲斐

1. 会務報告　会長：魚類学会から2件（*Ichthyological Research* の刊行助成，および研究成果公開促進費）の科学研究費申請を行った旨報告があった．
   会計：学会事務センターから引き継いだ未収金について報告があった．今年度末に雑損として精算することが提案され，了承された．また，2005年度の魚類学雑誌の広告収入が0円であったため，会計幹事を責任者とする広告集めの体制を作ることとなった．団体会員については，公費支払いの都合上，4月以降特別請求を行うことになった．
2. 2005年度年会実行委員会より提出された資料をもとに，ウェブ上での年会参加申込，振込用紙の送付方法，問い合わせの対応などについてのトラブルとその対処方法に関して議論した．
3. 後藤　晃自然保護委員長より，希少タナゴ類採集行為者の入会希望への対処案について，状況説明と検討経過報告があった．今後，答申にもとづき，評議委員会に諮ることになった．また，入会資格と審査についての細則改訂を今後検討していくこととなった．
4. 会長より2006年度学会業務委託契約書案について報告があり，内容について検討した．
5. 会務報告の会員用ウェブページ公開が予定されているが，これに伴い，パスワードの問い合わせが増加することが予想されるので，パスワードの変更することとなった．*Ichthyological Research* 53 (1) 発送時に新パスワードを記した折り込み紙を入れ，4月1日より変更することで了承された．
6. 2006年1月からの庶務幹事2名と会計幹事2名の交替に伴い，1月に幹事会を行って年間スケジュールの確認等を行うこととなった．
7. その他　男女共同参画学協会連絡会への参加要請があり，まずは採決権を持たない「オブザーバー学会」として参加することを評議委員会へ諮った上で，進めることになった．魚類学会から「魚の会」の簑島清夫氏へ贈呈する感謝状ついて，作成方法，贈呈方法などが論議された．

2006年度第1回幹事会

日　時：2006年1月11日 13:00–16:00
場　所：京都大学フィールド科学教育研究センター
出席者：松浦，西田，奥田，甲斐，波戸岡，北川

1. 2006年度より庶務幹事2名，会計幹事2名が交代した．会長より新メンバーに対して幹事会の運営に関する説明があった．
2. 2005年度末に行われた電子情報委員会と国際文献印刷社との会議について，庶務幹事より報告があり，年会メーリングリストと年会申込のウェブ登録，システムに関する説明がなされた．
3. 2006年度の学会運営に関わる年間行事予定が確認され，年会に向けた準備日程表が作成された．
4. 魚類学雑誌の広告収入拡大に向けて，会計幹事を責任者と

する新たな体制づくりと会計上の注意点が話し合われた．

5. 希少淡水魚類の採集を行っている者への学会としての対応，罰則規定に関する会則の改訂，その他，会則に記されていない事態が生じた場合の対処について議論され，評議委員会に諮るための幹事会の方針がまとめられた．

6. その他　魚類学会賞の応募状況と応募の活発化について議論された．今後，3名程度の学会賞推薦委員会を設けて，推薦依頼することの可能性が検討された．2006年度年会では，会場費支出の確保の増加に伴う参加費および懇親会費の部分的値上げが予定されている事が確認された．今年度は名簿作成年に当たるため，作成方法の詳細が話し合われた．